

主任班グループ別研修

研究テーマ『園運営の要としての主任の役割～役割を果たすための力量を身に付ける～』

主任班は、第1回研修会に引き続き、研究の視点に沿ってグループ協議を進めた。1学期の取組を振り返り、自己課題と方策に対する成果・課題、今後に向けた手立てについて話し合った。また、助言者からは、主任としての役割や職員との良好な関係づくりなどの御指導をいただき、意識向上につながった。

<グループ協議 主任班1 A～Fグループ>

- ① 少人数園、複式学級の保育の充実（Aグループ）
 - ・小規模園の保育は難しさがあるが、他園との交流を増やしたり、園内で異学年での関わり方を工夫したりするなどして、成果がある園もある。
 - ・交流保育の頻度やタブレット型PCの活用など、子供同士が関わりをもてる方法を考えていきたい。
- ② 保育推進のリーダーとしての発信力や助言力の育成（Bグループ）
 - ・保育指導では、労いの言葉を掛けた後アドバイスすることや、主任自身がいろいろな考えを受け入れることを心掛けるとよい。
 - ・保育の振り返りでは、子供のエピソードやテーマを設けるなど、話しやすくするための工夫が必要である。
- ③ 保育推進のリーダーとしての発信力や助言力の育成（Cグループ）
 - ・指導計画や週日案と子供の実態、また担任の思いと子供の実態にずれがある時、どう助言していくとよいか話し合った。子供と同様、職員にも寄り添い支えていきたい。
- ④ 幼小の円滑な接続（Dグループ）
 - ・幼小の円滑な接続のためには、小学校職員との交流の機会をもつこと、子供たちが小学校の場に慣れることが大切だと考える。
 - ・交流するだけでなくフィードバックまで行い、反省を次の交流に生かしながら接続を進めていきたい。
- ⑤ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Eグループ）
 - ・職員体制によるマネジメントの難しさがある。去年の反省を基に保育を展開できた園もあれば、見通しがもちづらく課題が残る園もあった。
 - ・担任だけでなく専任教諭や預かり担当など、様々な職員のマネジメントが必要である。
- ⑥ 発達支援教育の理解と保育の充実（Fグループ）
 - ・講演では「認める」ということの大切さを再確認した。主任として、職員や子供たちに「あなたのおかげで私がこんなに幸せ」と伝える機会をつくっていきたい。
 - ・効率化を図った園内での発達支援教育の情報共有を目指し、今後も研修を重ねたい。

主任班1 ～助言者御指導（抜粋）～

- ・「主体的・協働的な組織づくり」の基本的な枠組みは、①【Research】組織的に教育課題を全職員で可視化・焦点化する。②【Plan】子供の実態と課題をふまえ、取組のアイデアや重点目標について、全職員でワークショップを行う。③【Do】組織的意思決定に基づき、取組が計画的・組織的に行われるよう留意する。④【Check・Action】教師間でのアンケートを基に、成果と課題を検証し、その結果を踏まえ、継続的な改善へとつなげていく。の4点である。この効果として、教師が教育課題を自分事として捉え組織的な取組が行われること、協働意識が高まるとともに同一歩調で活動が行われるため、若手育成においても期待ができる。
- ・助言者の園での研修「園評価から出た課題を基に『2学期にやれそうなことを見付けよう』を事例としてお話しいただいた。このワークショップ研修の中では、主任はファシリテーターとなり、話しすぎないことや言いやすい雰囲気を作ることを心掛ける必要がある。それぞれの立場や各園の実態に合わせ、主体的・協働的な組織作りを目指して、各園流に取り組んでほしい。

<グループ協議 主任班2 G～Jグループ>

- ① 少人数園、複式学級の保育の充実（Gグループ）
 - ・複式学級は、どちらかの学年に活動や援助などが偏ってしまうなどの難しさがあった。
 - ・少人数学級の運営や支援を要する子への援助など、1学期に取り組んだことを2学期に活かしていく。園の規模や園児数に合った行事の見直しをし、子供たちの活動につなげていく。
 - ・少人数体制での発表会の持ち方や内容について、各園の具体的な取組を持ち寄り話し合いたい。
- ② 幼小の円滑な接続（Hグループ）
 - ・各園の交流計画を持ち寄り、取組や交流の仕方、またその成果などを話し合った。
 - ・近隣の小学校と連携がもちやすい園は、幼児教育とのつながりを発信し続けることが大切である。（子供同士の交流、公開保育・授業見学、便りの共有、連携を円滑に進めるための窓口の設定など）
 - ・実践報告や、次年度に向けて課題を解決するための工夫などの情報共有をしていきたい。
- ③ 園運営が円滑に進むためのマネジメント（Iグループ）
 - ・主任として職員間の情報共有、職員のケアやフォロー、職員の力量に合わせた仕事の割り振りなど、1学期の園運営について話し合った。その中で職員の共通理解のための時間の確保が難しいという課題があがった。
 - ・担任をもつ主任の強みとして、職員のモデルとなり保育や行事の取組を示すことができた。
 - ・職員の思いを出すには話し合いが大切である。引き続き、風通しのよいチームワーク作りについて話し合っていく。
- ④ 発達支援教育の理解と保育の充実（Jグループ）
 - ・1学期に取り組んだ成果と課題を出し合い、「発達支援の部屋」の在り方について話し合いを深めた。発達支援教育を充実させるための専門性の向上を図るため、具体的な活動を持ち寄り、情報交換をした。
 - ・学級と発達支援の部屋の連携について、各園の取組や2学期の具体的な支援方法などを話し合っていく。



主任班2 ～助言者御指導（抜粋）～

- ・今回の研修会は、前回出た課題を各園で意識し、工夫して取り組んだことが伺えた。話し合いの中で見られた傾聴や共感の姿は、主任として園の中でも発揮され、それが園内の心理的安全性につながっている。
- ・チームとして職員の悩みや園の課題が出てきやすい環境や、職員間で思ったことを言える間柄であってほしい。自分の悩みなどを言語化して出すことが大切であり、それが課題解決能力を高めていくことや主任としての役割を果たすための力量につながっていく。どのような自分であると、その人の助けになるかを想像して行動していくことが大切である。
- ・悩みや課題があるとき、主任として選択肢を提案したり、経験を踏まえてメリットやデメリットを伝えたりすることはできても、解決するのは本人でなくてはならない。悩みは人生で得た課題であり、自分の力で乗り越えた時に本当の力になっていく。経験を積み重ねるとは、どれだけ挑戦してきたか、試してみたかということであり、この経験が人を育てることにつながっていく。
- ・時代の変化と共に、次の世代に求められていることも変化している。職員が同じ方向を向き試行錯誤していくことができるよう、主任として目を配っていく必要がある。